

講義名称	文化社会学	担当教員名	松下 峻也
科目群	社会科学		
科目区分等	社会 CA7 DI5	単 位	2
対象学年次	1年・秋	ナンバリング	SOC185

授業のキーワード	社会学・文化の研究・メディア史
授業の概要	本科目では、「文化」と呼ばれる身近な対象や現象と、私たちが何気なく生きている「社会」の成り立ちとの関係を読み解くことを目標とします。そのための手がかりとして、広義の「メディア」の歴史を考えます。
期待される学習成果（目標）	履修する学生が、①現代で「あたりまえ」となっている社会文化的な営みを歴史や思想の視点から説明する力、②現代の社会・文化・メディアが抱える問題をみずから発見する姿勢、を身につけることを目標とします。

授業展開		
回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	「社会」、「文化」、「メディア」を学問として考えるための準備をします。
2	現代社会と文化の成立	近代以降のメディアの登場と発展が今日の社会文化的な営みを基礎づけていることを考えます。
3	活字と近代の「知」	「書物を読む」という行為の歴史と現状を考えます。
4	新聞とジャーナリズム	「ジャーナリズム」という営為の歴史と現状を考えます。
5	映像を複製する写真	「光景の複製技術」がもつ社会文化的な意味を考えます。
6	映像を再生する映画	「運動の複製＝再生技術」がもつ社会文化的な意味を考えます。
7	音声の遠隔送信としてのラジオ	「音声の遠隔送信技術」が「放送」として制度化されたことの意味を考えます。
8	放送としてのテレビ	「映像の遠隔＝同時送信技術」がもつ社会文化的な意味を考えます。
9	情報化社会の成立	「コンピュータ」と「インターネット」の登場と普及から「デジタル化」という現象を考えます。
10	デジタル時代の社会と文化	情報化が引き起こしている社会と文化の変容を批判的に考えます。
11	デジタル時代の記録と記憶	情報化社会における現在の／過去の出来事にたいする意識／記憶のありかたを考えます。
12	デジタルアーカイブと社会的記憶の再構築①	アーカイブ化された映像の視聴・考察をとおして「戦争の記憶」を再検討します。
13	デジタルアーカイブと社会的記憶の再構築②	アーカイブ化された映像の視聴・考察をとおして「公害病事件の教訓」を再検討します。
14	デジタルアーカイブと社会的記憶の再構築③	アーカイブ化された映像の視聴・考察をとおして「原子力災害の経験」を再検討します。
15	総括	「社会」、「文化」、「メディア」を学問として考えることの意義を共有します。

定期試験	授業内で解説する複数のキーワード使用を要件としたレポート課題を指定します。
授業時間外学習	予習：参考文献のなかの毎回の講義に関連する章を精読します。 復習：授業内容をふまえて各自でノートを作成します。
評価方法	①上述の期末レポートによる授業内容の理解度の評価（期末試験50%）、②授業内で配布・回収するリアクションペーパーにもとづく姿勢の評価（平常点50%）、の合算とします。
使用する教科書（必ず購入してください）	教科書は指定しません。代わりに、毎回の授業で文書教材を配布し、重要（必読）文献の紹介をおこないます。
参考文献	石田英敬（2016）『大人のためのメディア論講義』筑摩書房。 テッサ・モーリス＝スズキ（2004＝田代泰子訳2014）『過去は死なない——メディア・記憶・歴史』岩波書店。